

I. 日時：平成 23 年 1 月 26 日（水）13：00～15：00

II. 場所：アルカディア市ヶ谷 4 階「飛鳥」

III. 出席者

松山委員長、黒澤副委員長、大嶋委員、松野委員、齊藤委員、高取委員
梶原アドバイザー、大谷委員（書記担当）
（事務局）井端事務局長、森下主幹、平田職員

IV. 議事概要

1. 学士力(コアカリ)実現に必要な ICT 活用について

- ・会議に先立ち井端事務局長より、本日の会議の目的として、「薬学らしい学士力実現のための基礎・応用(発展)・総合的学力を実現するための授業デザインを提案いただきたい」との、説明があった。続いて参考資料①(2011. 1. 10 付日本経済新聞)に関して説明があった。
- ・つぎに、各委員・アドバイザーより提出された授業デザイン案(資料②.0～②.7, 追加資料)について、それぞれの委員らより概要の説明があった。
- ・続いて討論が行われた。以下、主な意見を記す。
 - 私情協として授業デザインを提案する上でのポイント：必ずしも ITC を前面に出す必要はない。現在ではなく将来の理想を描く。薬学教育が取り組むべき課題が明確になっていること。「授業のねらい」はシラバスではなく、教育課程全体における位置づけや、解決すべき問題点を明確にすることが望ましい。そして、「授業の中での ITC の活用」において授業の一例を示すとよい。
 - 「基礎・発展・総合」という用語の位置づけが、初等中等教育の教育学で使われている用語と異なると誤解を招く。
 - 医学においては、振り返り学習や職種間連携がとりあげられている。薬学においても、「いまある」ではなく「これから」の能力開発、授業デザインについてとりまとめていただきたい。
 - SP などの一般市民が参加した SGL や、職種間連携、高度先進医療を推進するための授業デザインなどを今以上に取り入れていくべき(松山委員長)。
 - 学習成果を発表・発信する機会を整備すべき。
 - 総合力を育てるための提案をすべきか、基礎力を育てるための提案をすべきか明確にすべき。
- ・「基礎力、リメディアル教育」に関する授業デザインと、「総合力」を育てるための授業デザインをそれぞれ 1 つずつ作ることにし、二班に分かれて方向を検討した。
- ・総合力を育てるための授業としては、セルフメディケーション、在宅医療、職種間連携などにおける薬剤師の役割を念頭におき、「学びの力」、「自己学習の力」を育てる授業とすべきであるとの結論に達した。具体的には、資料②.6 の提案に従い、例えば「がん」の病態や薬物治療などを題材とした自己学習からはじまり、職種間連携を題材とした総合学習へと展開する授業デザインとし、その中で ITC を活用していくのが良いだろうとの結論に達した。

- ・基礎力、リメディアル教育としては、初年次教育の段階において、高等学校の理科や数学の範囲の中で「薬学」の視点から必須の内容を抽出する。これをもとに、「薬学」の視点から高等学校の理科、数学の CBT 問題をつくり、これを診断的評価に用いる。続いて、対象者に、最低限必要な「知識」を講義や Web Based Learning 等により修得させ、続いてそれらの知識を活用するための「考える力」を育む授業を SGL などにより展開するのが良いだろうとの結論に達した。

2. 次回までの宿題

- ・今回概要が提案された「基礎力、リメディアル教育」に関する授業デザインと、「総合力」を育てるための授業デザインについて、ドラフトを提示する。

V. 次回の開催日程

日時：平成 23 年 2 月 23 日(水) 14 時から 16 時まで

場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

以上